



2023年5月8日

各 位

上場会社名 東邦チタニウム株式会社
代表者名 代表取締役社長 山尾 康二
コード番号 5727 (東証プライム)
問合せ先 経営企画部
企画担当部長 留場 啓
(TEL. 045-394-5521)

「2030年ありたい姿」及び「中期経営計画（2023-2025）」策定に関するお知らせ

当社は、「2030年ありたい姿」及び2023～2025年度の3カ年を対象とする中期経営計画を策定しましたのでお知らせいたします。詳細につきましては添付資料をご参照ください。

以 上

東邦チタニウム株式会社 2030年ありたい姿及び 2023-2025年度 中期経営計画

2023年5月8日

1. 2030年ありたい姿

現行の「2030年ありたい姿」と「中長期基本方針」

前回中計（2020-2022）策定に先駆け、10年後の「2030年ありたい姿」の明確化及び共有化を図り、また将来のメガトレンドに備え、事業基盤強化の方向性を具現化するため、以下のとおり「中長期基本方針」を策定し、2020年11月に公表しております。



「2030年ありたい姿」の再構築

- ◆ 当社は2022年に「ESG経営の推進」を基本方針に掲げました。
これは、事業活動を通して自社とステークホルダーを取り巻く社会課題の解決及び社会の持続的な発展に貢献することを全社的に共有したいとの趣旨です。
- ◆ 2023年に創立70周年を迎えますが、より長期的な視点で企業経営と社会への貢献に取組み、「100年企業」を意識したいと考えています。
- ◆ そこでマイルストーンとなる「2030年ありたい姿」をアップデートするとともに、グループ全体のベクトルを一つに束ねて一体感を醸成するため、新たな目標を掲げて再構築することにしました。



ESG経営の推進

経営理念

東邦チタニウムグループは、チタンと関連技術の限りない可能性を追求し、優れた製品とサービスを提供し続けることで持続可能な社会の発展に貢献します



先進素材と技術を創出し
環境変化への柔軟性を持つ
高収益企業となり
高度循環型社会の発展に貢献する

【キャッチフレーズ】

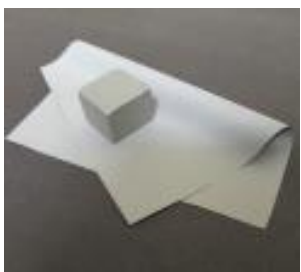
期待を超える！“BE2030”



※ Beyond Expectations 2030

2030年 事業別ありたい姿

売上高100億円規模



WEBTi®

新規事業

航空機向けスポンジチタン
世界販売シェアTOP
売上高経常利益率10%以上

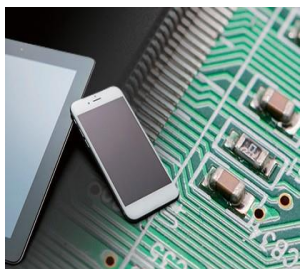
金属チタン事業



売上高2倍
(対22年度)

売上高経常利益率
15%以上

化学品事業



PP触媒世界販売シェアTOP3
売上高経常利益率20%以上

触媒事業



ニッケル粉国内販売シェアTOP
売上高経常利益率15%以上



2030年度目標値

売上高 2022年度比約2倍
経常利益 売上高経常利益率 (ROS) 15%以上

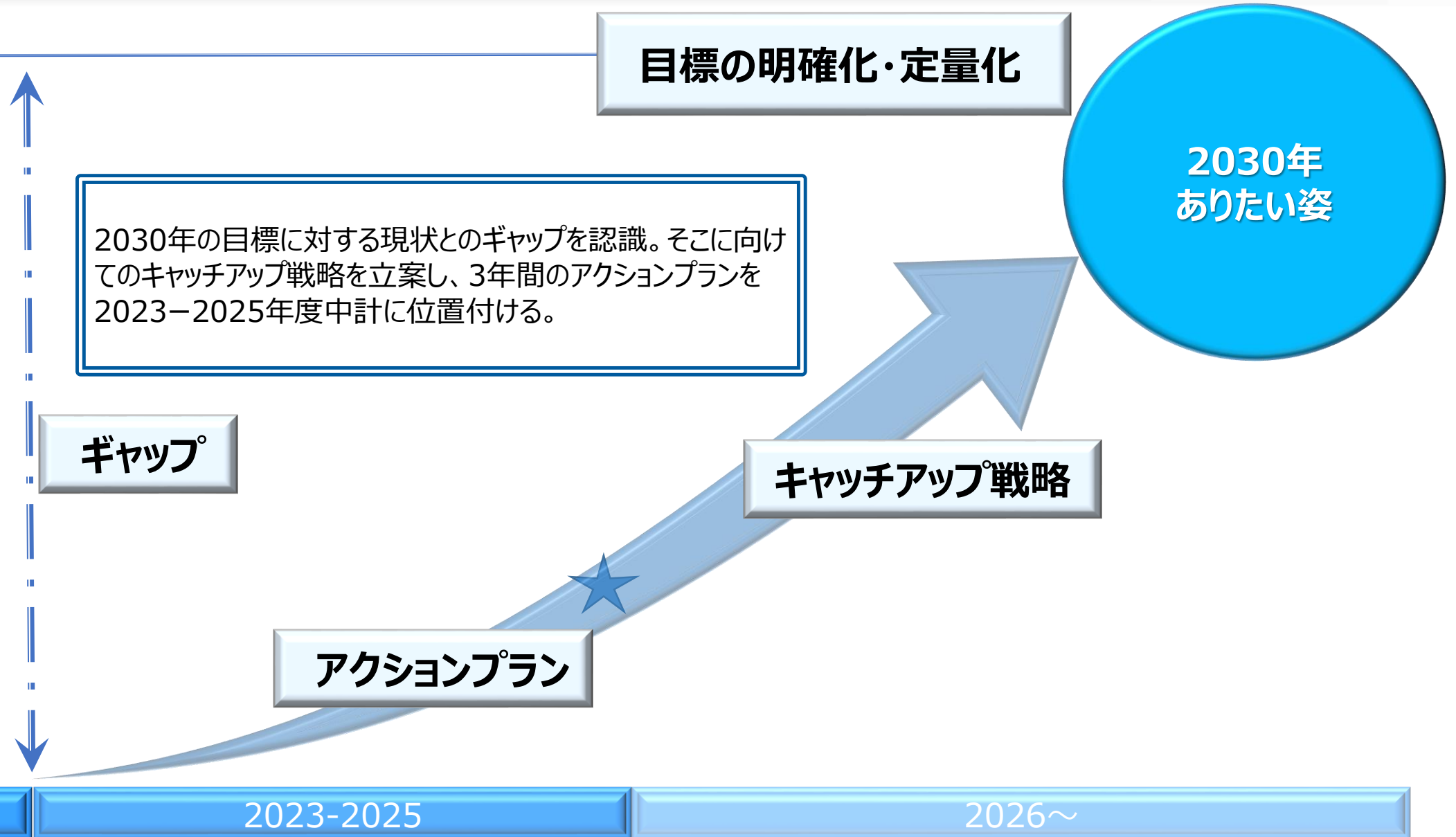
	2030年度	(参考) 2022年度
売上高	1,700	804
経常利益	250	105
ROE、ROIC	共に10%以上	15%、8%
D/Eレシオ	1.0倍未満	0.84

(億円)

【ROS】
(15%)

2. 2030年ありたい姿に向けての 2023-2025年度 中期経営計画

2023-2025年度 中期経営計画の位置付け



事業別ありたい姿と23-25中計の主要施策

1

金属チタン事業

事業環境前提

航空産業が年率4%以上の成長を前提

2030年
ありたい姿

- ◆ 航空機向けスポンジチタン世界販売シェアTOP
- ◆ 売上高経常利益率10%以上

現状

- ◆ スポンジチタン世界販売シェア3位
- ◆ 在庫評価損益除きの売上高経常利益率ゼロ以下

キャッチ
アップ戦略

- ◆ スポンジチタン価格水準の適正化
- ◆ チタンインゴット増産による加工マージン増収
- ◆ スポンジチタン（若松/茅ヶ崎工場）設備の一部改良による能力増強
- ◆ 採算性確保が可能な新工場建設検討
- ◆ 労働生産性30%改善

23-25
主要施策

- ◆ コスト変動に連動した価格フォーミュラー化
- ◆ 若松/茅ヶ崎工場のスポンジチタン生産能力増強（3kt/年）
- ◆ サウジスポンジ工場（ATTM社）フル操業
- ◆ チタンインゴット生産効率向上

事業別ありたい姿と23-25中計の主要施策

2

触媒事業

事業環境前提

PP需要が年率4%程度の成長を前提

2030年
ありたい姿

- ◆ PP触媒販売シェアTOP3
- ◆ 売上高経常利益率20%以上

現状

- ◆ PP触媒世界販売シェア5位
- ◆ 売上高経常利益率33%

キャッチ
アップ戦略

- ◆ 黒部・茅ヶ崎工場の生産技術改善（現状生産能力に対して約40%アップ）
- ◆ 新工場建設による生産能力増強（現状生産能力に対して約30%アップ）
- ◆ 触媒高性能化による攻めの市場開拓
- ◆ 労働生産性30%改善

23-25
主要施策

- ◆ 生産技術改善等による生産能力増強（現状生産能力に対して約6%アップ）
- ◆ 新工場建設による能力増強計画策定

事業別ありたい姿と23-25中計の主要施策

3

化学品事業

事業環境前提

MLCC需要が年率7%前後の成長を前提

2030年
ありたい姿

- ◆ニッケル粉国内販売シェアTOP
- ◆売上高経常利益率15%以上

現状

- ◆ニッケル粉国内販売シェア3位
- ◆在庫評価損益除きの売上高経常利益率12%

キャッチ
アップ戦略

- ◆第5工場稼働による生産能力増強
(総完成時には現状生産能力に対して約40%アップ)
- ◆次期増強投資の具体化 (現状生産能力に対して約30%アップ)
- ◆労働生産性30%改善

23-25
主要施策

- ◆第5工場稼働 (25年度予定) による生産能力増強
(現状生産能力に対して約20%アップ)

事業別ありたい姿と23-25中計の主要施策

4

新規事業

2030年
ありたい姿

◆売上高100億円規模

現状

◆チタン多孔質体（WEBTi®）の事業化推進中
◆それに続く新規事業案件検討中

キャッチ
アップ戦略

◆WEBTi®の事業拡大
◆さらなる新規事業の創出

23-25
主要施策

◆新素材事業部でWEBTi®の事業化
◆事業拡大に応じた生産能力増強
◆技術戦略部と技術開発センターで新規事業テーマを企画・開発

ESG経営の推進（環境「E」のありたい姿及び23-25中計の主要施策）



1

地球環境保全への貢献

ありたい姿

キャッチアップ戦略及び23-25中計の主要施策

脱炭素化社会の実現

★2030年CO₂排出量15万 t / y
(2018年度比▲40%)

- ◆チタン新製錬技術開発、CO₂フリー電力、カーボンニュートラルLNG導入等
- *2025年CO₂排出量19万 t / y (2018年度比▲25%)

環境に配慮した製品の開発

★環境・安全性に配慮した新素材、技術改良、
新規用途開発による複数製品化

- ◆WEBTi®の事業化
- ◆WEBTi®以外の新素材の製品化検討

持続可能な資源活用

★2040年廃棄物最終処分量を
2020年度比50%削減

- ◆サプライチェーン全体での廃棄物再利用
- ◆原料のリサイクル推進、廃棄物の有効利用

ESG経営の推進（社会「S」のありたい姿及び23-25中計の主要施策）



2 社会への貢献、魅力ある職場の実現

ありたい姿

キャッチアップ戦略及び23-25中計の主要施策

サプライチェーンにおける人権尊重
★サプライチェーンに関わる全ての人々の人権尊重

- ◆サプライヤーの人権に対する取組み調査、監査実施
- ◆全従業員の人権意識高揚

地域社会共生
★社会貢献や地域活性化支援

- ◆各事業所での社会貢献や地域活性化への支援（地域のスポーツ・文化活動支援、近隣学校との共同ボランティア活動及び工場見学受入れ等）

職場の労働安全衛生改善
★重大な労働災害発生の撲滅、健康的に働ける環境の実現

- ◆JISQ45100の維持
- ◆JISQ45100に基づく労働安全衛生に関する諸活動の展開

多様性と包摂性
★多様性と包摂性に配慮した職場の実現

- ◆女性管理職比率20%以上
- ◆新卒、キャリア採用者における女性比率20%以上の維持

ESG経営の推進（社会「S」のありたい姿及び23-25中計の主要施策）



2 社会への貢献、魅力ある職場の実現

ありたい姿

キャッチアップ戦略及び23-25中計の主要施策

働きやすい職場環境の整備
★活力をもって働ける職場環境の実現

- ◆働き方改革に対応できる人員体制の確立
- ◆処遇条件向上
- ◆従業員満足度調査の継続実施による改善点の洗出し・実行

人材育成
★長期ビジョンを実行するための人材及び組織作り

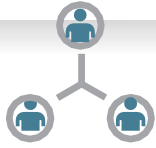
- ◆専門スキルの高い人材の積極的採用
- ◆サクセッションプランに基づく異動等により、幹部人材・中核人材の育成

DX戦略
★自動化・機械化を推進し、より高い生産性を
実現（労働生産性30%アップ）

- ◆全社DX推進ビジョン策定、推進体制構築
- ◆データ活用人材の採用・育成
- ◆DXリテラシーの全社底上げ

茅ヶ崎リニューアル、本質安全化投資
★都市型地域共生拠点化、
完全無災害

- ◆事務棟及び正門周辺の改善、老朽化設備の更新等
- ◆完全無災害達成に向けたリスクアセスメントの100%実施、安全対策投資



3

経営基盤強化

ありたい姿

キャッチアップ戦略及び23-25中計の主要施策

コーポレートガバナンス強化

★コーポレートガバナンス・コードの着実な運用

- ◆脱炭素に向けた移行計画策定、開示
- ◆開示要求への適切な対応

コンプライアンスの徹底

★コンプライアンス違反ゼロ

- ◆従業員のコンプライアンス意識の底上げ
- ◆職場特有の課題抽出&意識付け

リスクマネジメントの推進

- ◆全社的リスクマネジメントの定着運用実施
- ◆リスク管理委員会によるPDCA
- ◆資産効率適正化

23-25中計編成結果

(1) 売上高、営業利益等

(億円)

	2023年度	2024年度	2025年度
売上高	832	1,070	1,200
金属チタン事業	587	670	720
触媒事業	98	130	150
化学品事業	139	260	300
新規事業	8	10	30
営業利益	46	100	130
金属チタン事業	23	50	60
触媒事業	28	33	40
化学品事業	11	29	35
新規事業	▲1	2	10
共通等	▲15	▲14	▲15
ROS	5%	9%	11%
ROE	5%	11%	13%
ROIC (単体)	3%	6%	7%
D/Eレシオ	1.0%	0.9%	0.8%

23-25中計編成結果

(2) 財務指標、株主還元

企業価値の持続的向上



強固な財務基盤、株主還元の充実

経営理念

東邦チタニウムグループは
チタンと関連技術の限りない可能性を追求し
優れた製品とサービスを提供し続けることで
持続可能な社会の発展に貢献します

行動基本方針

私たちは、経営理念を実現するため次の3つの基本方針に基づき行動します。

1. 安全とコンプライアンスを最優先し、健全で公正な企業活動を行います。
2. 変革と創造を実践し、従業員と企業の持続的成長を果たします。
3. 顧客、地域社会、株主をはじめとする全てのステークホルダーと対話を進め、信頼・共生関係を築きます。

本資料の中には、当社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、当社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは大きく異なってしまう可能性があります。当社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。
また、要因はこれらに限定されるわけではありません。

- ・主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
- ・主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
- ・為替相場の変動 など

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。したがって投資に関する決定は本資料のみに依拠されるのではなく、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。